

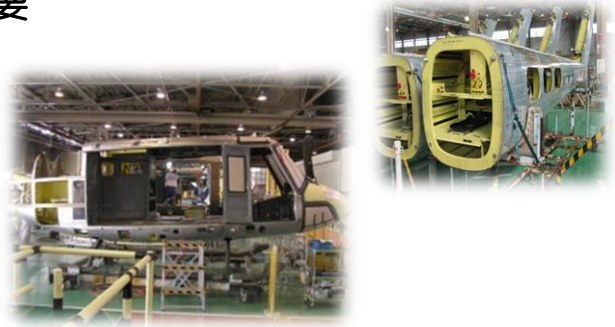
5. オスプレイ整備の具体的な内容

- 米海兵隊オスプレイは、使用部隊で行う日々の点検や、整備部隊で行う予防点検のほか、5年に1度程度の間隔で、整備企業に外注して行う分解点検（いわゆる「定期機体整備」）が必要であり、木更津駐屯地で実施するのは、この定期機体整備です。
- 陸自オスプレイについては、平成30年度末から順次導入される計画であり、整備方法を今後検討していくこととなりますが、米海兵隊オスプレイの整備内容と同程度であることが見込まれます。（平成36年度から定期機体整備が開始される見込みです。）

■ 米海兵隊オスプレイ定期機体整備の概要

整備作業の内容

- ・ 5年に1度程度の間隔での分解点検
- ・ 内部構造を点検し、腐食・損傷等を修復
- ・ 不具合のあるユニットがあれば交換
- ・ 2回に1度の整備ごとに、塗装を塗り直し



陸自多用途ヘリコプター（UH-1J）
における定期機体整備の様子

整備の頻度等

- ・ 定期機体整備の対象となるのは、年5～10機程度
 - 機体ごとに定期機体整備が必要になる時期が異なるため、年ごとに対象機数変動します。
- ・ 1機あたりの整備工期は、3～4か月程度
 - 修理箇所の違いにより工期が長短します。
- ・ 定期機体整備後は、駐屯地内でのホバリングチェック（ヘリコプターなどが空中で停止した状態で行う安全チェック）を経て、試験飛行を実施
 - 試験飛行でのチェック内容により飛行回数は変わりますが、ヘリコプターでは定期機体整備後に、一般に数回程度の試験飛行が行われます。

■ 整備企業について

- 米海兵隊オスプレイの定期機体整備を担当することとなった富士重工業は、陸自ヘリコプターの製造、修理等を行っている社であり、民間機分野においても、ボーイング787の中央翼の製造を担当するなど、航空機製造・修理において実績のある社です。



UH-1J

AH-1S

富士重工業が製造・修理を
担当している陸自ヘリコプター